

20TH ANNIVERSARY

**20th  
Anniversary**

**JUNKO  
Association**



# 20th Anniversary



▲20年前の JUNKO School ▼現在の JUNKO School



## Table Of Contents

- 3 理事長よりご挨拶
- 6 学生代表よりご挨拶
- 7 JUNKO の歩 - 年表 -
- 9 ベトナムでの新たな試み
- 10 ミャンマーでの新たな試み
- 11 顧問より祝辞
- 15 ベトナム協力者より祝辞
- 16 高橋廣太郎氏より祝辞  
NPO 杉並文化村より祝辞
- 18 JUNKO OBOG 会より



### 「ミャンマーにおける よりよい教育を受けられる 環境の創造」

ミャンマー農村部には、夜に明かりがなく、読書や勉強をすることが出来ないという現状があります。子どもたちが健やかに成長するため、欠かす事の出来ない生活基盤を整える支援をします。



### MISSION

「開発途上国の恵まれない子どもたちがよりよい教育を受けられる環境の創造」

「開発途上国の子どもたち自身の学ぼうとする力や意欲を引き出し、子どもたちの視野を広げるような支援活動の実施」

「日本の人々に開発途上国の実情や抱える諸問題などを伝え、異文化理解や南北間の相互依存に対する理解を促進する」

### IMPORTANCE

「世界の恵まれない子どもたちのため」  
「学生による創造と実践の場」

私たちは、世界の子どもたちが人として十分に発達することで、彼ら自身が持つ潜在能力を将来において存分に発揮できる社会を目指す。また、日本など先進諸国の人々が開発途上国の抱える問題や地球規模の問題を理解し、ともに生きることのできる公正な社会が実現されることを願う。



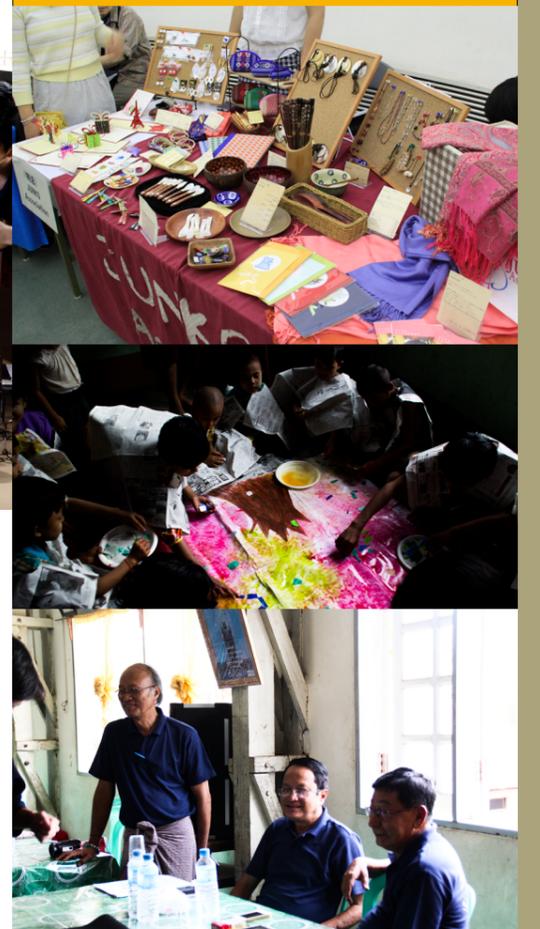
### 「ベトナムにおける 中学教育の格差縮小」

「ベトナムの貧しい子どもたちのために何か役に立ちたい」と願った当時明治学院大学国際学部3年生だった高橋淳子さんの遺志を継ぎ、1995年9月、ベトナム中部のダナン市近郊のディエンフック村の小学校を建築しました。それが現在でも交流が続く「JUNKO School」です。



### BELIEF

JUNKO Association が長きに渡り成長を遂げてきた礎石は、高橋淳子さんの「世界の恵まれない子どもたちのために」という想いに原点がある。その想いに照らし合わせ、この活動は本当に良いことなのだろうか、常に自問自答し見詰め直していくことが JUNKO Association の伝統であり価値である。



# 20年という時間 理事長 松岡良樹

20年という時間は「高橋淳子さんが生きた時間と同じ時間である」と思うと感無量です。

この間たくさんの学生が JUNKO Association に携わってきました。人生の方向を決める走り出しの時期に JUNKO に係わり、得られた感動を人生のスタートの中に取り入れられたなら、この会の役割も小さくはなかったといえます。

20年はベトナムの環境を大きく変えました。経済発展を遂げ、教育水準も向上しています。未舗装の土ぼり舞い上がり雨でぬかるむ村の道は舗装された道路となり、一部センターラインも引かれています。午前午後と二部制の授業をする小さな学校に代わり新しく田んぼを埋めて作られた学校が JUNKO 小学校です。私たちはこの校舎建築と増築を援助し国家標準小学校となりましたが、その後村人たちは自力で音楽室や図書室、コンピューター室を備えた11教室を増築し、国際水準の小学校になりました。

ベトナム政府も戦争の後遺症から立ち直って教育政策に力を入れ、高等学校卒が大半とするべく環境を整備中です。現在の活動は、ディエンバン市ディエンフック社で、小学校2校、中学校1校、高等学校1校を訪問し、小中学校ではいままでの奨学金に変わって「JUNKO 賞」を授与しています。これは絵などのコンテストを行い、成績一辺倒の価値で埋められやすい学校教育を補完して子供たちのやる気を伸ばすプログラムです。また今年より同じクアンナム省内のヒエップドゥック社の少数民族の村での活動を試験的に開始しました。



ミャンマーは、私たちが最初に訪れた時はまだ軍政の最中でした。現在は民政が始まったばかりで、資本も技術も不足し、政府も青年の国際交流をやっと始めたばかりです。レパダンの町の人々の好意に支えられて始まった訪問開始時は、外国人とは日本の私たちのことでしたが、2年前から他の外国人の姿も見えるようになりました。仏教に支えられた社会の厚さがありますので、それを発展させる政治に変化すれば大きな力が出ます。

JUNKO は、台風ナルギスで甚大な被害を受けたヤンゴンのタンリン僧院小学校校舎建設と引き続き ODA の校舎建設、レパダンでは No1BEHS (小中高一貫教育校) では、最初に中央校舎棟建設、次に ODA による教室棟改築援助、そして現在建設中の図書館棟にかかわりました。レパダンではハンターイエ僧院孤児院や孤児施設である BTS にも関わっています。そしてミャンマーは、校舎・教具・教育方法などの不足が大きな課題ですし、学校へ通う環境作りも課題が山積です。



## ■ 20年を振り返って

JUNKO は学校校舎の建設をして来ました。これは地域の教育の力を引き出すには、校舎の建設や改築が教師・親・生徒たちにとっては大きな励みになるからです。JUNKO が ODA 援助と異なるところは、その後も引き続き学生たちが学校に出かけ、人の交流を続けていることです。この結果は最近顕著に見えてくるようになったように思います。

レパダンでは、町の人々とも仲良くなることができ、2015年7月にはスタディーツアーを組み、明治学院大学や日本の高等学校、市民図書館、消防署などを見てもらうことができました。町の篤志家たちは診療所を作り日本の中古の救急車や消防車を使っていますし、市民図書館も自力で運営しています。

大きく見るとこのような人的な広がり大きな財産となっているものの、やはり JUNKO の活動が地域に与えた検証は必要です。学生たちの「したい」という気持ちを中心にしてきた活動ですが、結果としてどのような取り組みが村や町の人に、そして子供のためになったのかは冷静に考えてみなければこの先の活動は困難になります。

ミクロに点検すれば相手を傷つけ関係を破壊する可能性も強く、当事者を避けて先生たちにでも感想や意見を聞くことも必要でしょう。



## ■ これからの JUNKO にむけて

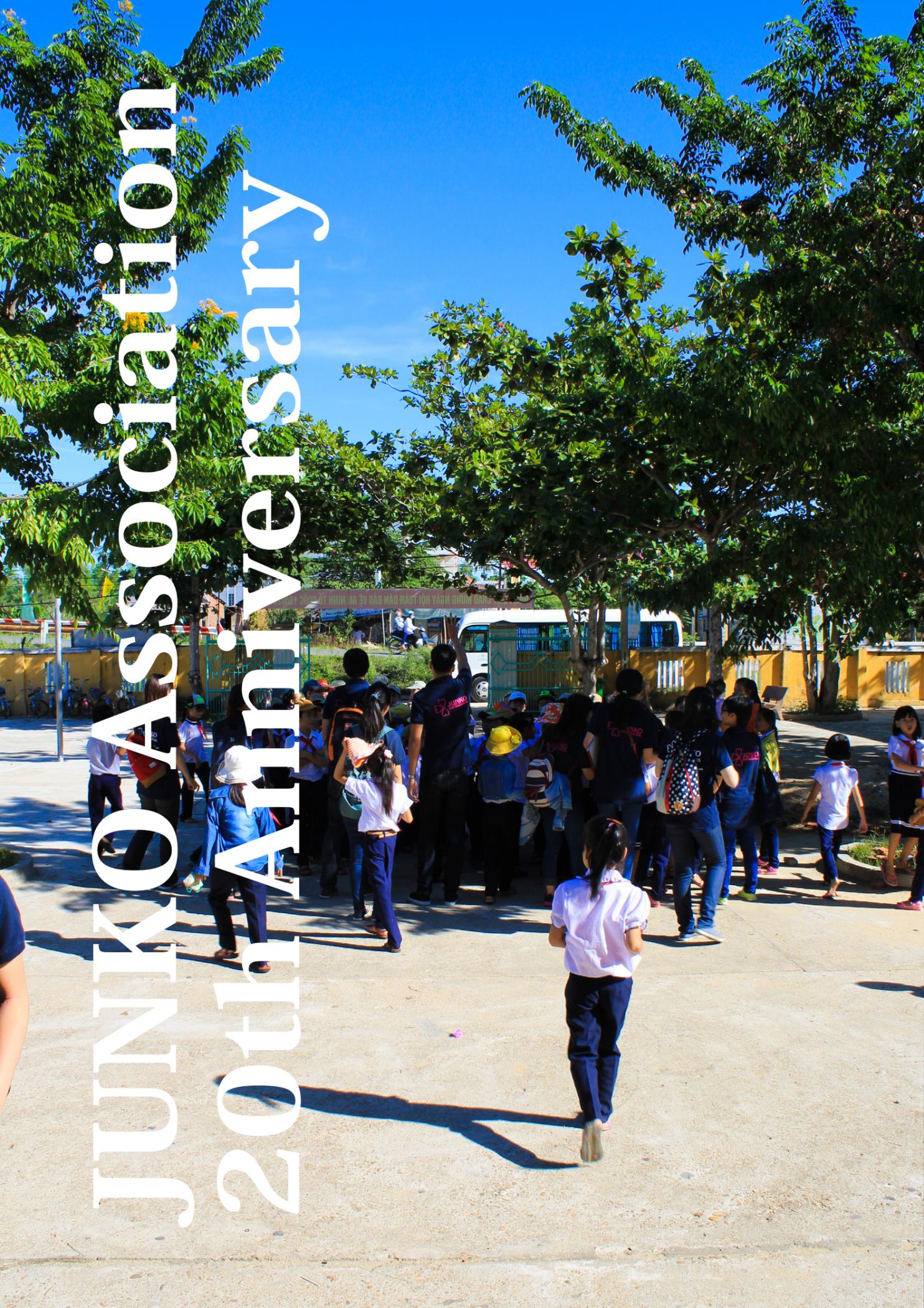
いまの学生メンバーがいままで力を一番出している時かなとも思います。ベトナムもミャンマーも経済発展とともに国家体制を整えて力をつけています。外国 NGO の活動にむけられる行政的手続きは年々厳しくなっています。JUNKO も独自活動の展開を希望するならば、小さい団体であっても国際 NGO としての水準を持つ事務局が構成できなければ、学生の短期の訪問のみといえどもこの先は難しくなっています。

難しいといえれば難しく、きちんと考えれば気楽にやれるともいえますが、インターネットの普及と交通路の簡易化もあり、相手の存在に対して深く考えなくとも現地へ行けるようになりました。また「自分たちの代」という当初はなかったような考え方も見られます。

相手側にとっては代など関係ありません。国際活動は良く自分を見つめ、自分が何を知らないかを知らなければ、若さゆえ自分のやり方や感覚を押しつけることになり易いものです。このため最近では幾つかの困惑させられる事態の発生も見受けられました。

国際活動というもの、相手への深い理解が進めば進むほど、自分の中に変化が起こり、関係が進むとともに深く得るものがあります。この楽しさを軸に活動を進めたいものです。

# JUNKO Association 20th Anniversary



1995年から始まったJUNKOの歩みは、多くの方々の支えのもと今日を迎えるまでに至りました。本年、20周年を迎えることができたことはひとえに皆様のご支援、お力添えがあったものと、この場をお借りし感謝申し上げます。私が初めてJUNKOと出会ったのは3年前のこと、入会の決め手は「JUNKOらしさ」でした。ミーティングでの会話を聞いても全く理解できなかったにもかかわらず、どこかその姿勢に魅かれたことを鮮明に覚えています。

2013年春、私はベトナムで生涯忘れることのない体験をしました。その日もいつもと変わらない暑さの中、助成金支給のために地域の中学校に通う学生の家庭へ訪問を行っていました。その家庭は仕事で忙しいからと中々日程が合わず休日にやっと訪問が叶った家庭でした。お母さんと小学生の妹、本人の3人家族、お父さんはいません。家庭訪問も終盤に差し掛かり最後に「将来の夢は何ですか？」と何気なく聞いた私に彼は「タクシーの運転手になりたい」と答えてくれました。「なんでタクシー運転手になりたいの？」と更に質問を返すと彼は「お父さんがタクシー運転手で、乗せて貰ったタクシーから見る風景が好きだったからだよ！」と満面の笑みで答えてくれました。家庭訪問終了後、同行したベトナム人の友人にあることを聞きます。

「タクシー運転手だけでは家族を養っていけなかったお父さんは物を盗んで、それが見つかり今は警察に捕まっているのだ。だから、お母さんは一人で生計を立てなければならないから訪問の都合をつけるのが難しかったんだよ」

専務理事兼事務局長  
(学生代表)  
小林 亮太



私は正直言葉に詰まりました。中学生の彼もまたその事実を知っていました。知っているなお、タクシーに乗って見る景色を他の人にも見て貰いたかったと笑顔で語ってくれたのです。そしてお母さんは忙しい合間を縫って私たちに会ってくれたのです。貧困は親から子へと連鎖し、夢や教育の機会を子どもたちから遠ざけようとする。その現実と向き合った時、自分の未熟さを痛感しました。綺麗ごとだけでは済まされない支援の在り方を知ったその時から「自分に出ることは何なのか」という自問自答を繰り返し今に至ります。

ディエンフック村の子どもたちへの支援は村の自助努力による就学率の向上により、助成金支給から規模を拡大しての交流へと移り変わり、現在では新たな地域への活動展開を始めるまでに至りました。一人の女性の想いから始まった小さな活動は、「夢と希望」という形で今でも多くの子どもたちに影響を与えています。高橋淳子さんが歩まれた20年。そして、これからJUNKO Associationが歩み出す21年目。「世界の恵まれない子どもたちのために」「学生の創造と実践の場」この二つの理念を胸に、私達の答えなき挑戦は続いていくことと信じています。

最後に、長きにわたり私たちを導いてくださった江橋顧問・松岡理事長、お力添えくださった支援者の皆さま、同じ志のもと夜遅くまで語り合った現役メンバーのみんな、そして何より、このような素晴らしい贈り物をくださった高橋淳子さんに心からの感謝を述べさせてください。淳子さんが残してくださった想いは色褪せることなく「JUNKOらしさ」として私たちの中に受け継がれています。



# JUNKO Association

## 20年の歩み

JUNKO School 改築から現在まで 20 年が経ちました。これまでの歩みを年表と共に振り返ります。



- 1993.12 ● 高橋淳子さん（当時 20 歳）交通事故により他界。彼女は生前、明治学院大学国際学部江橋正彦ゼミ（東南アジア経済）でベトナムについて学ぶ。
- 1995.2 ● 当時の江橋ゼミ生らが中心となり、国際 N G O 「JUNKO Association」を発足。
- 1995.5 ● JUNKO School に贈る楽器を集める。  
JUNKO School の開校式にあわせて中古のハーモニカ、リコーダー、ピアノなどの楽器を寄付したいと思い、大学内や付属高校内で呼びかけたところ、たくさんの楽器が集まる。（リコーダー 245 本、ピアノ 59 台、電池式電子ピアノなど）他にも、寄付金から机・椅子、時計、テレビなどを寄付することができた。輸送には、財団法人海事国際協力センターの協力をいただいた。
- 1995.9.4 ● JUNKO School 開校式
- 1996.3 ● 助成金事業 準備開始  
「単なる奨学金にとどまらず、その地域全体の教育環境整備の一助となる助成金活動」をコンセプトに現地 NGO「ダナン奨学会」との協力、ダナン大学群工学部大学院教授 NAM 氏のコーディネイトの下、春休みを利用した学生らが現地準備をすすめる。
- 1997.3 ● 短期交流員派遣（ベトナム）プロジェクト 開始  
ベトナム側での仕事を行う短期派遣交流員の派遣プロジェクトを開始。その後、ダナン大学などとの協力で「日本語講師」「現地支部コーディネート」「助成金受給児童の家庭訪問」等を展開。
- 1998.5 ● JUNKO Business プロジェクト 始動  
2 つ目の柱、「ボランティア団体だから甘えてないで自分たちで稼ごう！」「途上国零細産業の育成と雇用創出」のもとに始動。ベトナムの伝統品や産物を日本に輸入、販売。オリジナル商品の開発や、インターネット販売の企画も構想。
- 2000.8.25 ● JUNKO School 教室増設挙行式  
野坂昭如氏らが主宰する杉並文化村の協力の下、JUNKO School の 4 教室が増設される。
- 2001.3. ● ミャンマー新事業先行調査  
第 3 代目代表長井による現地調査。ミャンマー、バゴー管区にある Letpadan No.1 Basic Education High School を訪問。一部の校舎が老朽化し危険な状態にあったばかりか、学生数の増加からひとつの教室で間仕切りもなく 2 学級が学んでいる状況を見て、JUNKO Association で何かできないかと校舎の建てかえ費用の寄付を提案。



- 2001.3 ● ミャンマープロジェクト 発足  
ミャンマー、バゴー管区にある "Letpadan No.1 Basic Education High School" の校舎建てかえ費用の一部を寄付することを決定。JUNKO School に続く第 2 の拠点に。
- 2001.9 ● 初めてのミャンマーへの短期派遣  
Letpadan No.1 Basic Education High School の生徒たちとの交流が始まる。学校立て替え金寄付の式典への出席。学校や村を挙げての大歓迎を受ける。JUNKO メンバーはホームステイなどを通して貴重な経験をする。
- 2002.9 ● ベトナムプロジェクト交流事業を本格的に始動  
JUNKO School の子どもたちだけでなく、他の受給校の生徒や（助成金活動の対象ではない）ダナンの中学生、高校生とも交流することに。小学生 3 校、中学生 1 校、高校 1 校との交流プログラムを始動
- 2005.12 ● JUNKO School 10 周年を迎える  
10 周年を祝して盛大な式典を行う。現地協力スタッフである Phuoc 氏が来日
- 2006.10 ● ベトナムに大型台風が直撃。メンバー 2 名を緊急派遣。  
70 年に一度といわれる超大型台風がベトナムに直撃。約 1 週間にわたり緊急派遣し、以前より助成金を支給していた生徒の家庭に対して見舞金支給した。
- 2007.11 ● 特定非営利活動法人格取得  
チャリティーコンサート「響」開催
- 2008.5 ● ミャンマーに大型サイクロン台風直撃 学生会員 2 名を緊急派遣  
BEHS にて全壊した校舎 1 棟を修築 医療支援団体 AMDA への資金協力
- 2009 ● ベトナムダナン市内の大学生を中心とした現地組織 DANANG JUNKO 発足
- 2011.9 (2014.3) ● ミャンマープロジェクト 首都ネーピードー訪問。USDP 本部表敬訪問
- 2013 ● 明治学院大学ボランティアファンド学生チャレンジ賞を受け、ハンターイエ僧院孤児院にソーラーパネル寄付  
JUNKO School 国家第 2 水準標準小学校認定
- 2015 ● JUNKO Association 設立 20 周年を迎える。  
ベトナムプロジェクトが新活動地としてクアンナム省 Hiep Duc を訪問

## ベトナムでの新たな試み 地域との対話を重視した活動展開

これまで20年に渡ってベトナム事業部はDien Phuoc(ディエンフック・以下DP村)村において活動を行ってきました。その背景には「ベトナムの貧しい子どもたちのために何か役に立ちたい」という20年受け継がれてきた高橋淳子さんの思いがあります。以前に比べるとベトナムは目覚ましい経済発展を遂げ、DP村のある農村部にもその傾向が見られるようになってきました。一方で、今なお農村部や山間部では経済的格差に伴う教育格差の現状が存在しています。ベトナム事業部ではこうした経済的理由によって十分な教育を受けることのできない子どもたちをこれまで対象としてきました。年間3度の家庭訪問を伴う助成金事業では経済的側面にとどまらず実際に対面することによる付加価値としての精神的支援という形でアプローチを行っています。また、交流事業、JUNKO Prizeにおいては農村部に住む子どもたちにより広く、創造的な視野を養ってもらうことを意図としたアイデアコンテストや文化交流企画といった方法でアプローチを行ってきました。更に高校進学企画においては経済的理由によって学校に通い続けることが儘ならず、結果として中退してしまう高校生に対して、助成金という方法を持って卒業までの継続的な通学をサポートするというものです。

今後は2015年度をもって助成金企画終了したことを機に、DP村以外の地域への進出を考えており、2015年度春期短期派遣にて初の新地域訪問を行いました。そこでDP村とは大きく異なる、山岳地域をはじめとする4つの地域への訪問を行い、それぞれの地域で教育機関関係者、学校職員、そして生徒をはじめとする多くの人々と対話する機会をいただき、自分たちがこれまでいかにDP村以外の地域の状況に無頓着であったかを思い知らされました。また同時に、山岳地域を中心に未だ教育環境整備が行き届いていない状況を肌で感じ、JUNKOのベトナムにおける活動の将来を改めて考える機会となりました。

そして2015年度夏期短期派遣から、クアンナム省Hiep Duc(ヒエップドゥック)県Phuoc Gia(フックザ)社にて活動を開始しました。この地域を選択した理由は山岳地域という地理的困難な地域であることから生じる、学習に必要な物資をはじめとする学習環境の未整備にあります。またこの村には中学校が存在せず、進学する生徒は別の村に存在する中学校まで通わなくてはなりません。またそうした影響もあって中学を中退する生徒が多く存在しています。

こうした地域において今後ベトナム事業部は地域との対話を重視した活動展開を現在思案しています。また、活動における目標をより明確に定め、後世のメンバーが持続的活動を行っていくよう明確な道筋を示していきたいと考えています。そして、本当の意味でベトナムの子どもたちの学びの一助となるような活動展開を行っていったらと考え、今後も活動を続けていきたいと考えています。

2015年度  
ベトナム事業部主任  
坪島 真也



▲ JUNKO School の子ども



▲▲ 新活動地 山岳地帯クアンナム省 Hiep Duc 県



## ミャンマーでの新たな試み 人との繋がりと声を大切に

2015年度  
ミャンマー事業部主任  
長澤 弘樹



▲ No.1 Basic Education High School の生徒たち



▼ 現在建設中図書館



ミャンマー事業部は、2000年から活動を開始し本年で15年の歳月が経ちます。発足当時ミャンマーは軍事政権下であり、厳しい情報統制や暴力による民衆の抑圧などにより人々は暗い時代を過ごしていました。また「経済の民族化」を掲げた外資の排除による鎖国的経済の転換や、軍事政権国家体制に反発した米国の排外政策による経済制裁などにより国の経済は停滞し、これにより失業率は高まり、貧困問題が顕在化しました。これらの問題によりミャンマーでは外の世界の情報にアクセスできない、貧困により子どもたちが学校に通うことが困難になるなどの子どもたちへの影響も甚大なものでした。現在 JUNKO が活動をしているミャンマーのバゴー管区レパダタウンシップにも影響がありました。この際レパダタウンシップ出身の実業家 U Tin Maung Oo 氏が友好関係にある当時 JUNKO Association 理事長であった江橋正彦氏が子どもたちのために何かできることはないかという想いから「レパダタウンシップの子どもたちが外の世界を知り、自身の世界を拓き将来に大きな希望を抱くキッカケのための草の根の交流」と「貧困にありながらも勉学に励む子どもたちのエンカレッジのための助成金」を企画し、このミャンマー事業部は始動しました。

ミャンマー事業部は現在2つの地域で活動を行っております。一つはミャンマーの前首都であり最大経済都市ヤンゴン管区のタンリントンタウンシップ、もう一つはミャンマー事業部の始まりの地であるバゴー管区のレパダタウンシップです。この地域の学校や孤児院、僧院にて子どもたちとの草の根の交流を始め、助成金支給事業や日本の高校生とミャンマーの高校生を文通でつなげるペンパル事業、新図書館建設などの事業を行っています。それらの事業を行う上で我々は「一人との繋がり」を最も大切にしています。子どもたち、学校の教員、僧侶、カウンターパートの方々との対話を通じたコミュニケーションに力を入れ、我々を理解してもらおうと同時に、彼らを理解する努力を重ね真の信頼関係を築いた上でその人たちの心音を聞くことで現地に存在する課題を的確に掴み、現地にとってよりよい活動ができるように人との繋がりと声を大切にしています。

ミャンマー事業部は活動地の一つである No1 Basic Education High School に新しい図書館を建設しています。来年に完成を予定するその新図書館は、レパダ管内で一番の規模になる予定です。ミャンマーでもまたベトナムと同じように、子どもの学習に寄与できるよう邁進しています。今後も皆様には変わらぬご愛顧を頂けたら幸いです。

# 「Junko Association 20周年記念に寄せて」

特定非営利活動法人 JUNKO Association 前理事長、現顧問

## 江橋正彦

### キャリア

- ・1943年茨城県大洗町生まれ。早稲田大学法学部卒。
- ・ヘキスト・ジャパンを経て、1969年ジェトロ（日本貿易振興機構）入会。
- ・中国、ベトナム経済の調査研究に従事。その後、ジェトロ・マニラ勤務（1979-82）。
- ・国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）コンサルタント（1981-82）。
- ・在フィリピン日本大使館（外務省専門調査員）（1983-84）
- ・1987年から明治学院大学助教授（1990年同教授）。
- ・1991年から1年間ニュージーランド経済研究所（ウェリントン）客員研究員。
- ・2000～2002年まで明治学院大学国際学部学部長。専門は、アジア経済、開発経済。
- ・JICA（国際協力機構）の知的支援「対ベトナム市場経済化支援プロジェクト（1995-2000）および「対ミャンマー経済構造調整支援プロジェクト（2000-2003）（貿易産業部会会長）に参加。
- ・2012年3月にて退職、2012年5月明治学院大学名誉教授
- ・2012年7月よりミャンマーに移住、シンクタンク MERAC (Myanmar Economic Research & Consulting) Co., Ltd. 代表
- ・日本ミャンマー・ソサエティ (MJS) 代表幹事

### 著書

- ・“Role of China in the Economic Interdependence of ASEAN and the Pacific”, UN・ESCAP, 1982
- ・『キンニュン失脚後のミャンマー情勢』(SPF, 2006年)
- ・“Deepening BIMSTEC-Japan Economic Relations: Task Ahead”, CSIRD, India, 2006



ジュンコ・アソシエーション（JA）の創立20周年記念おめでとうございます。早くも20年が過ぎたんですね。淳子さんとご縁のあった僕にとっては、とりわけ感慨深いものがあります。JAの歴史を知らない学生メンバーも多いと思うので、まず、改めて20年前の発足当初の頃を簡単に振り返っておきましょう。

#### ■創立の頃のジュンコ・アソシエーション

当時、江橋ゼミの3年生だった高橋淳子さんは1993年の夏、「ベトナム経済における外国投資の役割」を調査するため、同じゼミ生の須田華蓮さんと一緒にベトナムを旅した。ドイモイ政策のもとで市場経済化が開始され、ベトナム経済はようやく92年から高度成長軌道に乗りはじめたものの、ベトナム社会は社会主義からの移行期特有の混乱に見舞われており、外国投資などはおろそかと始まったばかりの時だった。社会主義時代にすべて無料であった学校教育は、財政困難から一部有料となり、現金収入の乏しい家庭の子供たちの多くは学校に行けない状態にあったし、校舎不足から2部制あるいは3部制の授業が一般的であった。

淳子さんは、約1か月間の旅の中で、貧しくて学校に行けないたくさんの子供たちに会って心を痛め、「将来、恵まれない子供たちの教育支援の仕事を天職にすることに決めた」と帰国後の10月初旬、私に提出したレポートに書いた。しかし、そのレポートが遺書になった。1993年12月9日、淳子さんは交通事故で亡くなり、20歳の短い人生を終えた。

▼JUNKO Schoolに飾られる記念碑。改築当初の寄付者が記載



▼ベトナムディエンフック村人民委員会での交流



まもなく、その淳子さんの遺志を継いで、ご両親が資金を提供してベトナム中部ダナン近郊のディエンフック村に2階建て8教室の体育館付きの校舎を建設することが決まった。のちに村の人たちが「ジュンコ・スクール」と名付けたその学校を支援しようと、1995年3月、明治学院大学白金校舎で、江橋ゼミの学生たちが中心となって「ジュンコ・スクールを支える会」（当時）の設立発起人総会が開かれた。のちに、オーストラリア大使館の私の友人ジョン・ヒース氏の示唆で、会の名前を「ジュンコ・アソシエーション」に変えることになったが、これが、JA誕生の瞬間であった。

1995年9月、ディエンフック村にジュンコ・スクールが完成した。この地に校舎が建てられた経緯は、淳子さんが旅の中で最も思い出の深かったダナン近郊に校舎か図書館を建てたいとご両親の希望を踏まえ、私が友人の桜美林大学トラン・ヴァントー教授（現在は早稲田大学教授）に相談した結果、彼の親しい友人でクアンナム・ダナン省（当時）人民委員会副委員長のアン氏を紹介していただいたことがきっかけ。アン副委員長はミーソン遺跡に行く街道沿いで、しかも、ベトナム戦争の激戦区の一つであったうえ、毎年の洪水のせいで大変貧しいこの村の小学校の一つを新築することを提案してくれた。このディエンフック村にあった小学校は、650名の生徒にもかかわらず、5教室の窓のない粗末な校舎しかなく、授業は3部制で行われていた。生徒たちの多くは、概して小柄で痩せていて、衣服も粗末で、春休みに訪問した際には寒くて震えている子供も多かった。小学校の教員の給与は月約20ドル強にすぎず、教員の多くは生存のために、一日の多くの時間をシクロのドライバーや家庭教師などの副業に充てていた。

JAの最初の仕事は、新築した学校の生徒や教員の机や椅子、本箱、図書、楽器などを支援することであった。日本の新聞各紙やテレビで報道されたこともあり、寄付が集まり、松下電器から頂戴した29インチのテレビ、大学から頂戴した13個の壁掛け時計、JAの学生たちがキャンパスで集めた中古のピアノやリコーダーなどの楽器や教材用のビデオ・テープ、各種の図鑑などを満載した2個のコンテナを笹川平和財団の輸送支援をうけて送ることができた。

その後、JAのメンバーは春と夏の休みに定期的にジュンコ・スクールを訪ね、小学生と交流を続けるほか、まもなく、ジュンコ・スクールの生徒およびダナン近郊の貧困地区の貧しい子供たちにわずかながら助成金を供与する事業を立ち上げた。そのため資金を稼ぐため、ジュンコ・ビジネスチームが発足、ベトナムの雑貨を買い付け、日本で販売する事業も始まった。当時のJAメンバーは20名弱に過ぎなかった。

その後しばらく、JAはベトナムのジュンコ・スクールを中心に活動してきたが、2002年からヤンゴン近郊レパダンの小中高一貫校 NO.1 BEHSの老朽校舎の建替えを支援したのをきっかけに、その活動拠点をミャンマーにも広げた。レパダンのほか、ヤンゴン近郊ティラワ近くのタンリンの僧院学校も支援の対象に加えた。2008年5月のミャンマーのサイクロン被災に際しては、サイクロンで破壊されたタンリン僧院学校の5教室を建替えるなどの緊急支援も行った。さらに、昨年11月には、日本大使館草の根無償資金約1,100万円を得て、もう一つの校舎2階建て6教室の建て替えが完成した。これは、JAがレパダンの有志の方々と5年越しで準備してきたプロジェクトであった。



#### ■ JAの基本特徴

JAの事業モデルは、一口で言うと、アジアの中でも最貧国の一つであったベトナムとミャンマーの恵まれない子供たちに、より良い教育環境を提供する努力を続けながら、文化交流によって相手方の生徒たちに日本への関心や勉学への刺激を与えつつ、その活動を通じて、JAのメンバーも自分の世界を広げることができるというモデルだ。その事業の必要資金は、NPOになった現在でも、JAを支援してくれる人々や組織からの極めて限定された寄付、ジュンコ・ビジネスとJA学生メンバーの会費やポケットマネーに依存している。また、JAの活動の主体は、理事会に教職員の一部やOBOGが入っているものの、あくまでも学生が中心である。

JAの組織としての良い点は、毎年フレッシュな若い学生たちが入ってくるため、新陳代謝が活発なため、スリムで柔軟な体型を維持できるうえ、組織が若いため、ボトムアップの意思決定が可能で、対応が迅速であること。歳の近さもあり、ベトナムやミャンマーの生徒たちと対等の関係を築きやすいところにある。しかし、問題も多い。新陳代謝が激しいため、活動や情報の蓄積が組織に残りにくい。学生の事務能力や語学力の低さなどからコミュニケーションやガバナンスなどの面で脆さがある。ベトナムやミャンマーの政治・経済・社会に対する理解が中途半端なため、社会のニーズをくみ上げて中長期のプロジェクトを立案することが事実上できないなどだ。



▲ベトナム JUNKO School 設立 20 周年式典

JAの事業を取り巻く環境変化への新たな適応も大きな課題だ。ベトナム経済は20年前からかなり変わった。ベトナムの一人当たりGDPは、20年前の1995年に290ドルに過ぎなかったが、2014年には2,073ドル(IMF)に7倍に増えている。貧しかったディエンフオック村の子供たちも服装も良くなり、体形もがっちりし、小学校のドロップアウトはほとんどなくなった。恵まれない子供たちに助成金を支給するという仕事はほとんど不要になりつつある。ベトナムでJAが活動する意義を再定義して、新たな方向に転換することが不可欠だ。

#### ■ 今後のJAに期待すること

この20年間に、JAは400人を超える明治学院大学の学生たちの世界を広げるうえで、一定の役割を果たしてきたことは確かだ。ジュンコを舞台に活動し、大きく成長したメンバーたちを少なからず見てきた。また、確認はできないが、ベトナムのジュンコ・スクールやミャンマーのレパダン No.1 BEHS (Basic Education High School)、タンリン僧院学校などの生徒たちに日本の風を吹かせ、勉学に対する刺激を与えたことも否定できないだろう。しかし、NPOジュンコ・アソシエーションが学生たちの視野を広げ、世界を広げるための訓練の場に留まるのではなく、真に、ミャンマーなどの最貧国の恵まれない子供たちのために効果的な支援を行うつもりなら、素晴らしい企画をたて、それを企業や個人に売り込んで、募金などで必要な資金を調達することが王道だ。他人からの募金や助成金が集まらない活動なら、その活動は評価されていない証拠だ。最近のJAは、マンネリで、だいぶ前に敷いたレールの上をただ歩いていて、世間の評価を受けることを怖がっているようにも見える。寄付の集まる企画を立て、寄付を集めるにはどうしたらいいか、その一点にJAの知恵を結集してみたらいい。



▲ミャンマーレパダン No.1 Basic Education High School



最近、途上国の間で、外資系企業に企業の社会的責任(CSR)を義務付ける動きが起こりつつある。インドでは、2013年に企業フィランソロピーを義務づける法律「CSR法」を制定した。大企業に対し、少なくとも収益の2%をコミュニティ開発(地域開発)に使うことを義務づけたという。ミャンマー政府も、現在改訂中の新投資法の中でCSRを義務付ける動きを見せている。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンなどの国際NGOは、大企業にアプローチして、共同でミャンマーやインドの教育・医療・保健などのプロジェクトを手掛ける動きを加速している。プロ野球チームのDeNAは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが実施しているミャンマーでの母子保健事業を通じ、ミャンマーの無電化地域の安全な出産を応援する社会貢献プログラム「命を救うホームラン」を始めた。

JAが単独で優れた企画を大企業に売り込んで、ベトナムやミャンマーで実施するのは現実的ではないが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンなど日本のほかのNGOと組んで、プロジェクトの一部を担わしてもらうことで、JAをより高いレベルに引き上げることも考えてみてはどうだろうか?手始めに、私の友人の竹口省三さんが主宰しているNPOオアシスとタイアップして、2つほどエーヤワディ管区に井戸を掘るのを手伝ってみたいだろうか?アジア開発銀行の東南アジア局長からセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの専務理事兼事務局長に約半年ほど前に就任した千賀邦夫さんは、私のマニラ時代からの親しい友人だ。ぜひ、訪問して、提携の可能性を尋ねてみたい。

ベトナム事業部コーディネーター  
**Nguyen Van Phuoc**

私が JUNKO Association のサポートを始めてから 19 年が経過しました。時が経つのはとても早く、まるで昨日のこのように思われます。今思い起こしてみると、私がサポートを始めてから今までの JUNKO メンバーとのかけがえのない思い出たちが浮かび上がってきます。私が初めて JUNKO Association と出会ったのは、1996 年の夏、ダナン大学の選抜学生として JUNKO メンバーとの交流に参加した日でした。彼らとの初めてのミーティングの際、高橋淳子さんについての胸を打つ話や日本から来た学生の思いに心を動かされ、JUNKO メンバーのベトナムでの活動に携わることを決心しました。

それから、春夏それぞれの JUNKO メンバーの活動のコーディネートをしてきました。JUNKO の活動を知れば知るほど、私はボランティア活動の面白さを知りました。当時ほとんどのベトナムの大学生はボランティア活動や社会活動に親しみがなかったのです。

ダナンやクアンナム省での活動を行う際、JUNKO Association のサポーターを募ろうと友人に呼びかけましたが、何人かは仕事が多忙の中都合をつけることが難しくなりました。そこで 2009 年、私は JUNKO Youth Volunteer Group (通称ダナンジュンコ) という名の学生から成る組織を確立しました。この組織は JUNKO メンバーのベトナムでの活動を主体的に支えるチームです。同世代であり、共通の思いや視点などを持ったダナンジュンコと日本メンバーとの協力は体制はとても効果的なものであると思います。



JUNKO Association はその活動を通して、私を取り巻く様々なものを見せてくれ、視野や視点を広げてくれました。その視点というのは、他者からの助けが必要な貧しい人々や子どもたちの手助けをするということだと言えるでしょう。このことは、私がコミュニティーに対して責任を持って生きる一つのきっかけとなりました。それゆえに私は NGO で働くことを決めたのです。この仕事の活動範囲では、特別な状況における貧しい人々や子どもたちを助ける機会を増やす可能性があるのです。私は NGO で 12 年以上働いており、数々の経験を積むことができました。その経験は、部分的ではありますが JUNKO Association のアプローチがベトナムにおいて更に素晴らしいものになるために貢献できるものであったと言えるでしょう。

日本やベトナムの学生たちと共に活動することは私の人生を更に意味のあるものにしていてくれると感じます。私は、彼らとその若い力をコミュニティーに貢献し続けること、そして社会やコミュニティーの中で責任を持って生きていくことを望んでおり、そのために彼らをインスパイアしていきたいと思っています。ボランティア活動をするのは彼らの人生の価値や慈愛、そして特に自分自身の個性を理解するにあたり大きな助けとなるでしょう。

創立 20 周年にあたり、私は JUNKO Association が強く成長し、ベトナムおよびミャンマーにおいて継続的に意味のある活動を行っていくことを願っています。私は JUNKO Association の遥か先への成長への一助となれるよう、いつでも共にあります。

(翻訳：原 夢伽)



▲ 17 年前

早いもので、驚きました。20 年も経ちましたか、こんなに長い間、若い皆様の温かくジュンコを慕っていただける思いが続きジュンコへの火が保飛ばしていただけることは、この上もなくうれしく思います。また感謝いたしております。ジュンコが天国に召されたその時は、唐突にも私は如何すればいいか判らなく父親としても躊躇してしまいましたが、しかしまだジュンコは旅たらず、うちにいる感じがいたしまして、藁をもつかむ思いで、彼女の生き方、目指し方を、瞬時ではありますが見つけようと思つておりました。その折ゼミの教授・江橋先生からのご伝言、ご提示でジュンコの思いを、彼女の熱い思いの文章として発見いたしました。ここにまだジュンコは生きている、一緒に生きていけると感じ、お互いに会い見舞える天国の窓を垣間見ることが、震える思いで、察知しました。

そしてベトナムダナンディエンフック村にその存在を具現化し、実行に移すことができましたことはベトナムの皆さま、ジュンコの皆さまへ感謝の念に堪えません。ベトナムの皆さま、明治学院の皆さまと、驚くなかれと伝えたいことがあります。ついに、24 歳離れた同じ干支の、3 月 2 日 23 時 4 分 5 分に中国暦では 3 月 3 日ひな祭りにジュンコは男の子になり私どもへ舞い戻ってまいりました。今皆様に話すのも初めてですが、何時かは伝えたいと思っておりましたが、声のカスレ、合理的考え方、進め方、性別は違いますが、私の跡継ぎとしての考え方は同一です。

皆様もお分かりと思いますが、自分の目標一途に進む、努力するそんな子供で、再度私と今、自分の人生を見つめて邁進しています。

まだこの子は 18 歳で鋭意努力中ですので、皆様と会える機会は時間が取れず残念ですが、その時が参りましたら、私から頭を垂れ、申し上げますので、是非お会いしてください。私からは話ませんが、ジュンコを感じるものがいっぱいあります。どうか、老人戯言にかまわず、皆様でジュンコの思いを通じ、ジュンコを人生一瞬の路上の花として見下してください。

有難うございます。

高橋廣太郎

創立 20 年記念式典にあたり、江橋先生、松岡先生、並びに諸先輩、ご関係者、現役の皆様には、心からお祝いを申し上げます。この 20 年にわたる歩みの中で、今日までベトナム、ミャンマーの子どもたちへの教育支援活動を継続し、素晴らしい実績を上げて来られました事に改めて敬意を表したいと思います。

杉並文化村の創業者・故 渡辺直紀が JUNKO Association への支援を始めて 20 年近くになります。4 年前には現地視察ツアーを企画いただき、高橋淳子さんの「想い」を偲ばせていただきました。また、JUNKO スクールの元気で明るい子どもたちの踊りや授業風景を見学して、自分達の孫を見るようでした。

我々は杉並公会堂大ホールで、年 2 回の公演イベントを行っています。皆さんには毎回約 1,000 人の入場者の会場誘導、陰アナウンスをはじめ、ベトナム・ミャンマーの物販をも担ってもらっています。時には公演前の時間を使って、JUNKO Association の活動報告をも行ってもらっています。いまや、皆さんの協力無しには開催もおぼつかないぐらい、私達の活動に力を頂いております。改めて誌面をお借りして、深くお礼を申し上げます。また、終演後の出演者、関係者一同が会する懇親会でも若いエネルギーを貰い、楽しい時間を共有させてもらっています。

高齢者の多い杉並文化村と皆さんとのコラボレーションは高齢社会に突き進んでいる今の日本社会に新しい活動スタイルを提起しているかと自負しています。我々も一層頑張りますので、今後とも更なるご協力をよろしくお願いいたします。最後になりますが、JUNKO Association の皆さま、諸先生・先輩方々のますますのご活躍とご発展をご祈念いたします。創立 20 周年記念、まことにおめでとうでございます！

平成 27 年 12 月 20 日 NPO 杉並文化村 代表 白鳥 文治郎

# 20th Anniversary Special Thanks

## 後援関係者一覧 (2015年6月時点)

- ・横浜アクションプランナー
- ・特定非営利活動法人 Creative Association
- ・静岡学生 NGO あおい
- ・特定非営利活動法人 ジャパンハート
- ・明治学院大学内各ボランティア団体
- ・社団法人東京キワニスクラブ
- ・社団法人東京キワニスクラブユースフォーラム
- ・NPO 杉並文化村
- ・特定非営利活動法人 杉並子ども未来委員会
- ・TWO FIELDS JAPAN
- ・税理士法人 ファシオ・コンサルティング
- ・特定非営利活動法人 JUNKO Association 学生正会員保護者
- ・特定非営利活動法人 JUNKO Association OBOG
- ・特定非営利活動法人 JUNKO Association 正会員・賛助会員



- ・横浜市立横浜商業高等学校
- ・横浜市立みなと総合高等学校
- ・私立森村学園中等部・高等部
- ・川崎市立橘高等学校
- ・横浜市立戸塚高等学校
- ・多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校
- ・横浜隼人高等学校
- ・山手学院高等学校
- ・日本精米株式会社
- ・大和ライフネクスト株式会社
- ・株式会社コンシーズ CLASKA
- ・パパテオ
- ・ぽれやあれ
- ・RAKU
- ・earhthenplace
- ・株式会社ビックヒットカンパニー Pillar Cafe
- ・明治学院大学ボランティアセンター

### 【役員名簿】

- ・松岡良樹（理事長）
- ・田中桂子（副理事長）
- ・原口一孝（副理事長）
- ・大場明摩（専務理事兼事務局長）

### ◎理事

- ・東樹康雅
- ・大久保文博
- ・亀井沙帆里
- ・藤田徹
- ・小林喜子

- ・小林亮太
- ・浜田憲和（監事）
- ・江橋正彦（顧問）
- ・社会人正会員：10名
- ・賛助会員：20名
- ・学生正会員：54名

## JUNKO OBOG 会より

JA20周年おめでとうございます。昨年、正式にOBOG会を発足した目的は、OBOG間のみならず、OBOG・学生間のネットワークの構築にあります。活動を通して、社会人との窓口を作ることにより、OBOGの知見やネットワークを活用して、JAの活動の発展の助けになればと思い、昨年は4回ほど会を運営しました。今後も活動を継続し、互いの親交を深めることで、JAの活動が、より多岐に渡り発展することを願っております。また、個人的なコメントになりますが、20年という長い歴史の中で、思い返せば学生の時にJAの活動を通して出来た仲間は、人生において大切な宝物になりました。そして、OBOG会の活動では、昔の思い出話を同窓会というだけでなく、世代を超えて、新しい人生の仲間を増やしていける組織であると思っております。今後もみなさんの繋がりを保つプラットフォームであり続けられるよう、頑張りますので、皆様のご協力・ご賛同宜しくお願い致します。

OBOG会参加希望の方は下のメールアドレスから連絡ください！  
junko.obog@gmail.com



## 特定非営利活動法人 JUNKO Association 入会届

### 投函の方法

- ①「入会届」の大枠を切る
- ②会員区分を選択し、○をする
- ③指定された要項を記入
- ④封筒には

特定非営利活動法人 JUNKO Association

〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町1丁目13番地4パークナー  
ド鎌倉小町303号

と記入し投函

特定非営利活動法人 JUNKO Association 理事長殿  
私は特定非営利活動法人 JUNKO Association への入会を希望します。定款に基づき入会届の提出、及び年会費の納入を致します。  
会員区分 [学生正会員・社会人正会員・賛助会員]  
上記の括弧内の会員の内一つに○をして下さい。

氏名

現住所

電話番号（自宅） — —

電話番号（携帯） — —

生年月日 西暦 年 月 日

E-mail address

@

記載いただいた情報は活動における連絡のみに使用致します。上記の内容に間違いがないことに同意します。

署名 [ ]

特定非営利活動法人 JUNKO Association  
NPO 法人 JUNKO Association20 周年記念誌

〒 248-0006

神奈川県鎌倉市小町1丁目13番地4パーク

ナード鎌倉小町303号

TEL 090-6436-5269

Mail: junko.association.sr@gmail.com

HP: <http://www.junko-association.org/>

Twitter: @junko\_info

<連絡先>

神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518明治学

院大学横浜校舎国際学部田中桂子研究室気付

JUNKO Association

編集者 本田 恒平

(14期生SRプロジェクト)

## CONTACT



あなたの会費5000円が、  
子どもたちの学びを支えます。

✉ [junko.association.sr@gmail.com](mailto:junko.association.sr@gmail.com)

f [facebook.com/JUNKO.association](https://www.facebook.com/JUNKO.association)

🐦 @junko\_info

〒 248-0006  
神奈川県鎌倉市小町1丁目13番地4パークナード  
鎌倉小町303号

HP <http://www.junko-association.org/>

郵便振替口座 横浜倉田郵便局

口座番号：00230-9-8995



※会費は JUNKO の行うボランティア活動の活動費用とさせていただきます。  
※会費は原則振込式を取らせていただきますが、郵送される際は、上記の事務所を  
宛先としてください。  
※登録完了後メールにて会員登録の連絡をお伝えします。